

学力向上に効果のある取組事例

国東市立安岐中央小学校

④「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の適切な設定

取組の具体①

◆安岐中央小スタンダードの徹底

*学級づくりをベースにして

○[伝え合い]を支える・学習規律・人間関係づくり
考えをもつ場・交流の場の設定

○[自分の考えをもつ]・子どもが意欲的に取り組む課題の設定

ワークシート・思考ツール等、考えをもたせる工夫

○[進んで伝え合う]・効果的な学習形態の工夫
子どもの意見をつなぐ支援の工夫

○[ふり返りの視点]・学びを振り返り、学びを深めるふり返りの視点や方法を共有

○個別の支援・複数体制で授業を行い、困りを抱える児童への個別の支援を行う。

○互見授業・授業観察シートに記入して振り返り、互いの授業力アップにつなげる。

○単元テストの結果の共有化

・テストの共通集計ソフトに入力し、児童名入りの分布表をファイルに綴じる。各教科の復習に生かすだけでなく、個別のつまづきを職員間で共有し、指導に活かしている。

1. ねらいの明確化

本時のねらい

○この単元を学ぶことで、本時で目指す児童の姿を、**明確な立場で** **できる(わかる・気づく・理解する・考える)ようにする。**

○例> クライマックス場面を振り返る。考えることができるようにする。

これまでの大迫いさんと我部の関係や作品の叙述に着目することにより

2. 授業の展開の明確化

①単元の流れが児童に見え、手立てをとる。(学習活動の見通しを持たせるため)

②本時の展開

学習活動	学習活動	時	指導及び方法	留意点
導入 (5分)	○課題を把握し、本時の活動や解決への見通しがもてる。 Point A 解決策を提示する課題の設定	時	Point O 問題計画をふくむ単元の指導計画 本時の学習の目的の提示 ○題材との出会い(導入)の工夫をする。 ○これまでの学習内容とのつながりを意識させる。 ○問題、意図、問が深くよくなる指示の仕方を工夫する。	○授業の進め方、指導の仕方を考える。 ○児童の理解を促す。 ○児童の理解を促す。
展開 (25分)	○課題を解決するために自分で調べたり考えたりする。 (自己決定)	時	○自分の意見を持ち、アードに書く時間を確保する。 ○考えの整理となる時間を確保する。 ○困った時に意思表示(挙手)をさせる。 ○考えの整理の手助けとなる資料や異動・ヒントカードなどを準備しておく。 ○児童の個人やグループで意見交換するも効果的である。 見通しにより子どもの意見を整理し、意見の出し方を考える。	○自分の考えを整理し、アードに書く時間を確保する。 ○考えの整理となる時間を確保する。 ○困った時に意思表示(挙手)をさせる。 ○考えの整理の手助けとなる資料や異動・ヒントカードなどを準備しておく。 ○児童の個人やグループで意見交換するも効果的である。 見通しにより子どもの意見を整理し、意見の出し方を考える。
まとめ (5分)	○対話や協働により自分の考えの深化、基盤を固めたり、まとめをする。 (自己存在)	時	まとめ (課題と対応したまとめをする。)	○児童の理解を促す。 ○児童の理解を促す。
振り返り (5分)	○学習を振り返る。 Point B 学びを振り返る振り返りの実施	時	○振り返りシートを用いて振り返りを実施する。 ○振り返りシートを用いて振り返りを実施する。	○振り返りシートを用いて振り返りを実施する。 ○振り返りシートを用いて振り返りを実施する。

個別の学習の振り返りに応じた支援を実施する。(具体的な児童を想定)



取組の具体②

◆外部団体のサポート

○親子ふれあい週間

・毎月1回親子で宿題等に取り組む活動を実施。取組状況を主幹教諭が集計・分析し、教職員で共有し家庭に還流している。親子で取り組むことで、宿題確認や家庭独自の取組・生活習慣が定着し、自尊感情等が向上してきている。

○ぐんぐんタイム

・週に1回、担任を含む複数体制で、朝の帯時間にドリル学習に取り組んでいる。丸付けは、保護者や地域のボランティアの方がしてくださっている。その間、担任は個別に定着できていない児童へのきめ細やかな指導ができています。

○学びの教室

・教職員OBが、希望者を対象に毎月3回放課後に学習指導をしている。基礎基本の内容を中心に力をつけてきている。

